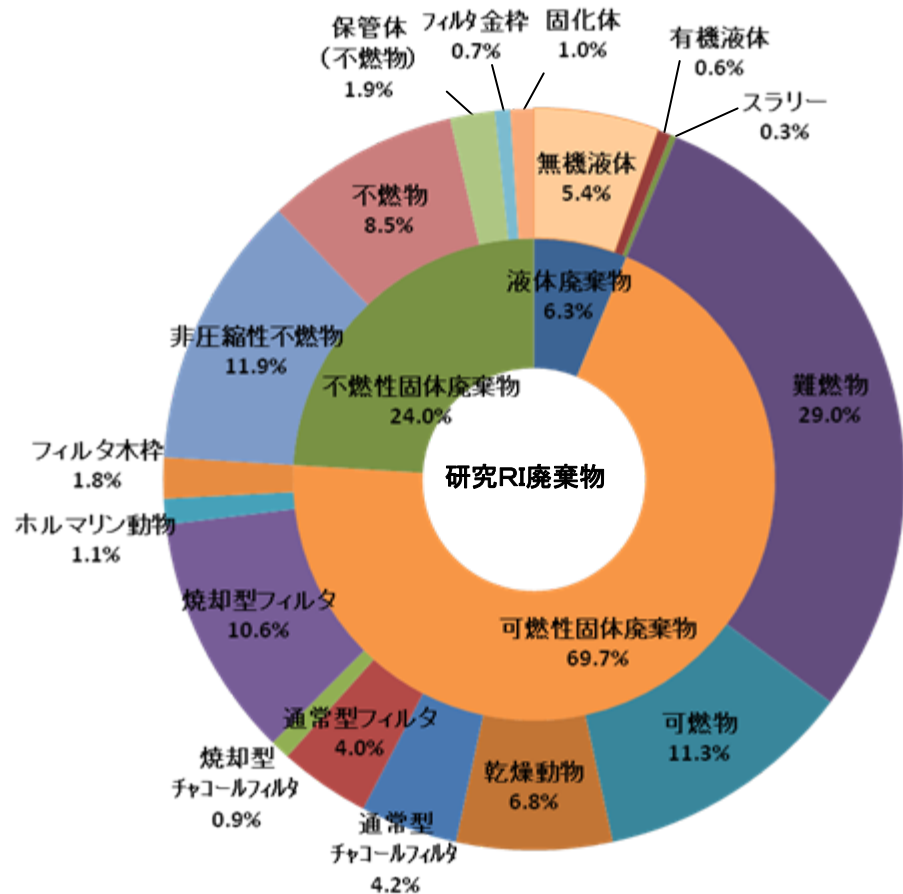


日本アイソトープ協会の 取組状況について

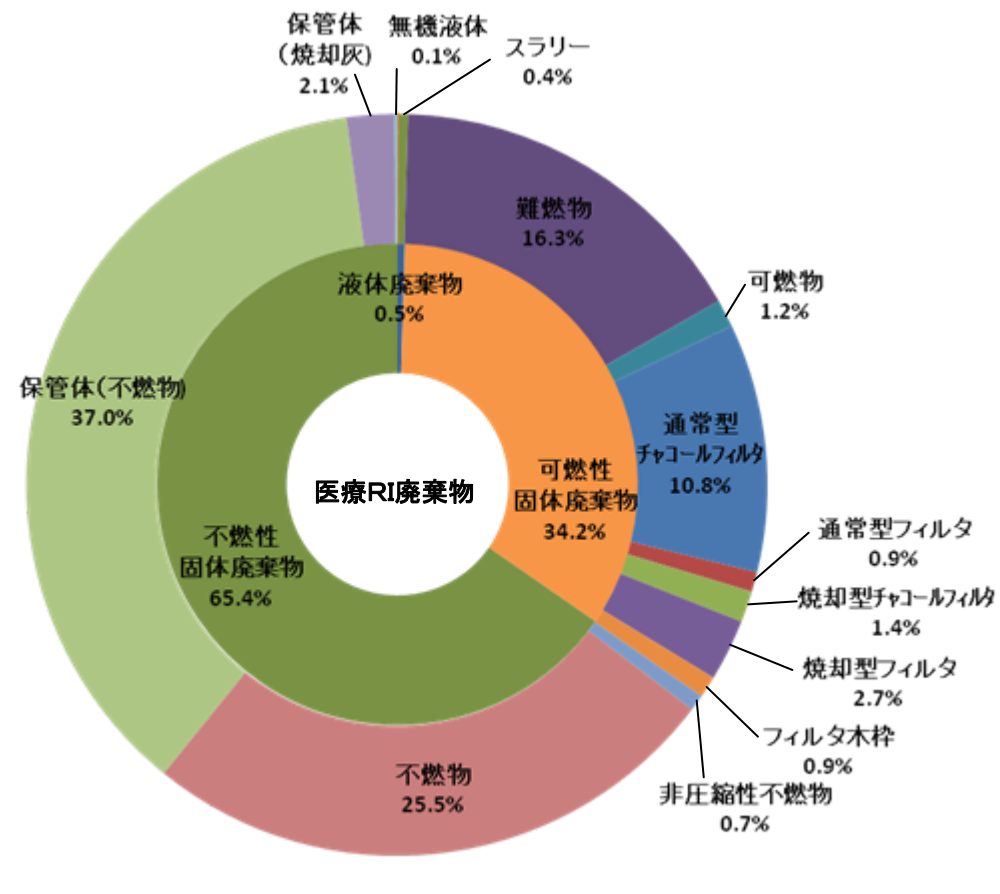
平成21年5月12日

(社)日本アイソトープ協会

RI廃棄物の保管量 (平成20年度末)

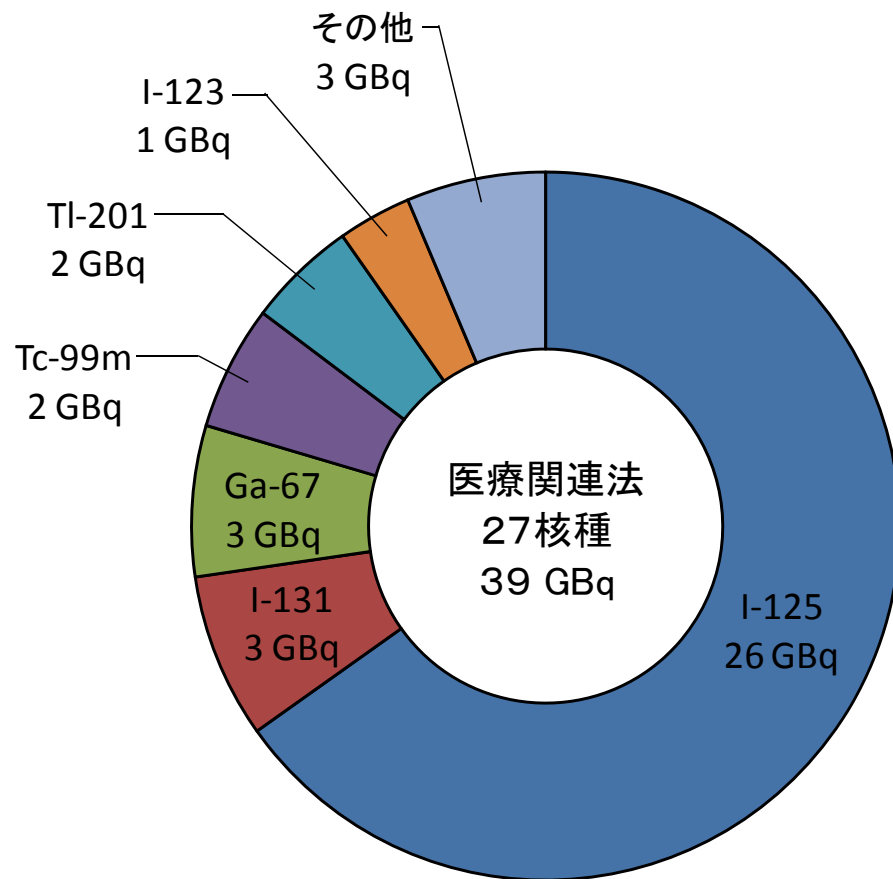
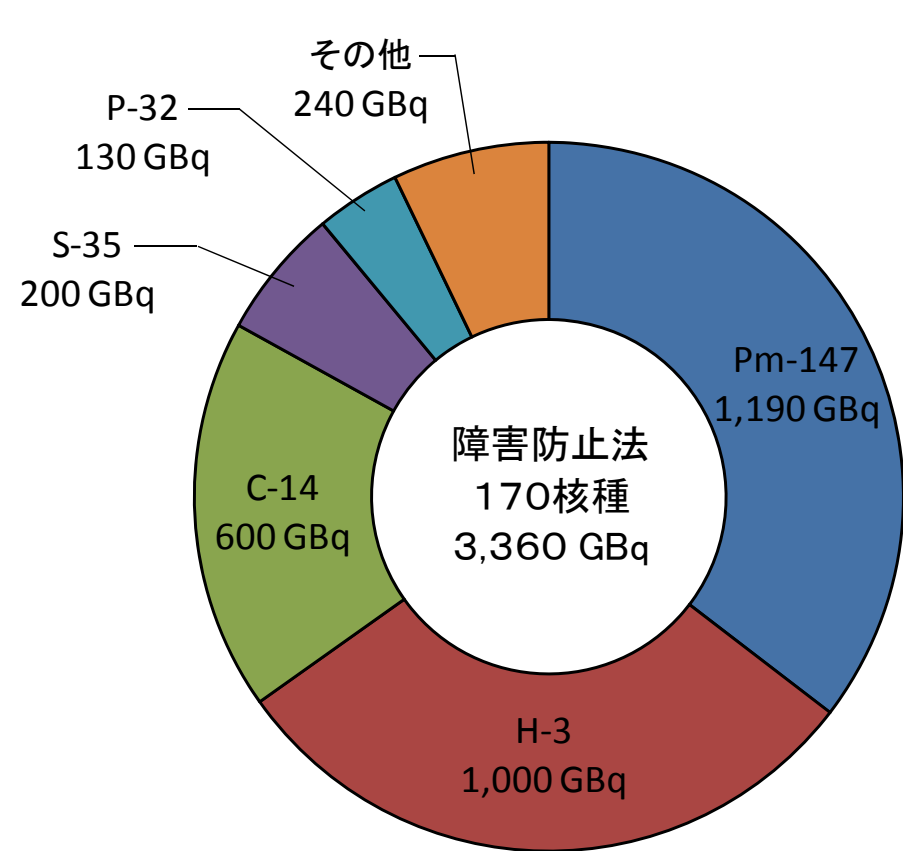


総数: 110,200本(200L換算)

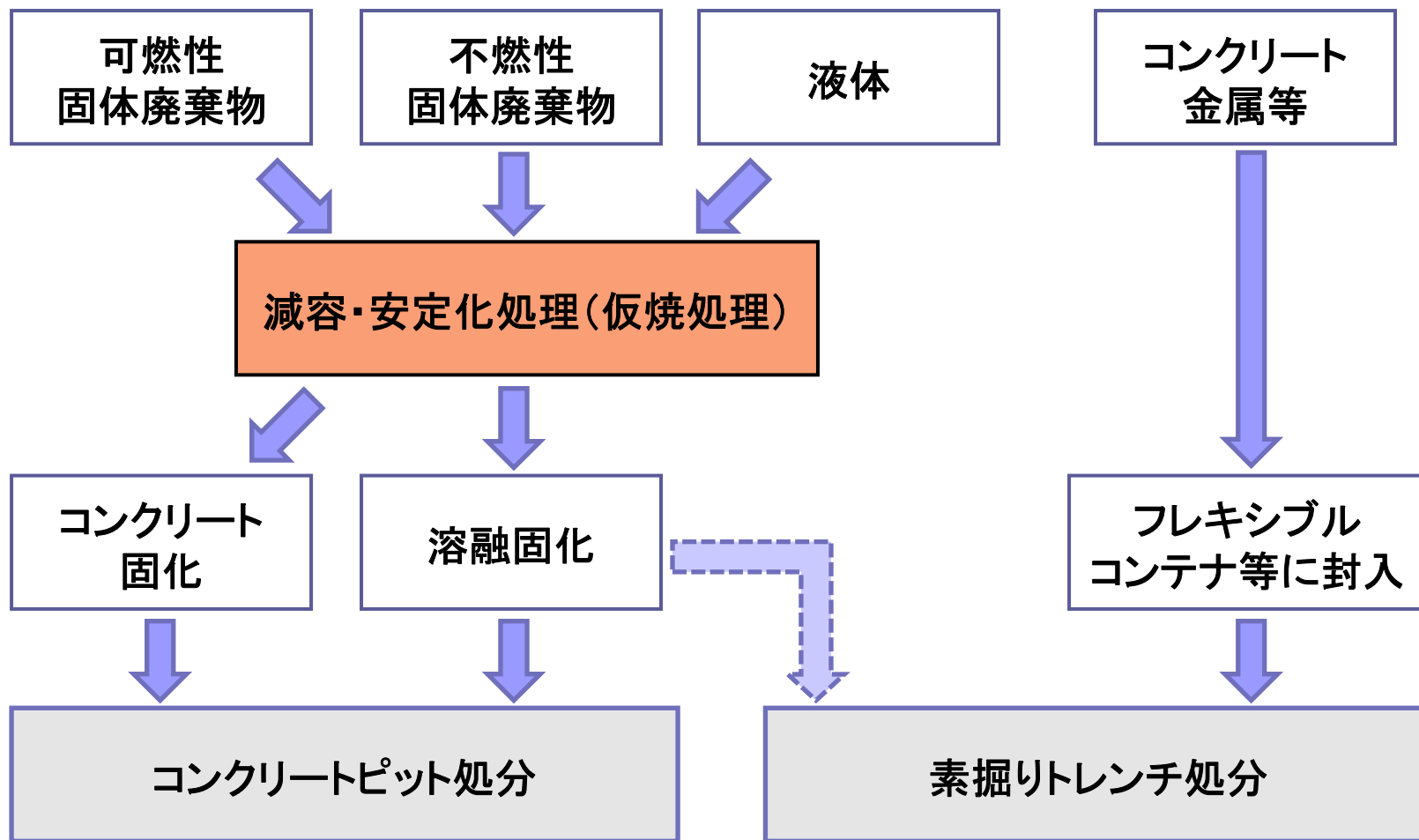


総数: 21,300本(200L換算)

RI廃棄物に含まれる核種ごとの放射能



RI廃棄物の処理から処分の流れ(将来計画)

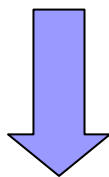


仮焼処理施設の設置理由

1. 不燃物中に含まれる梱包材等の可燃性物質を焼却減容
2. 感染性物質が含まれる可能性のある廃棄物を無害化
3. 焼却残渣を均質化し、サンプリングの代表性・均一性を確保
4. 廃棄体化の前段階でとどめ、将来の処分形態へ柔軟に対応

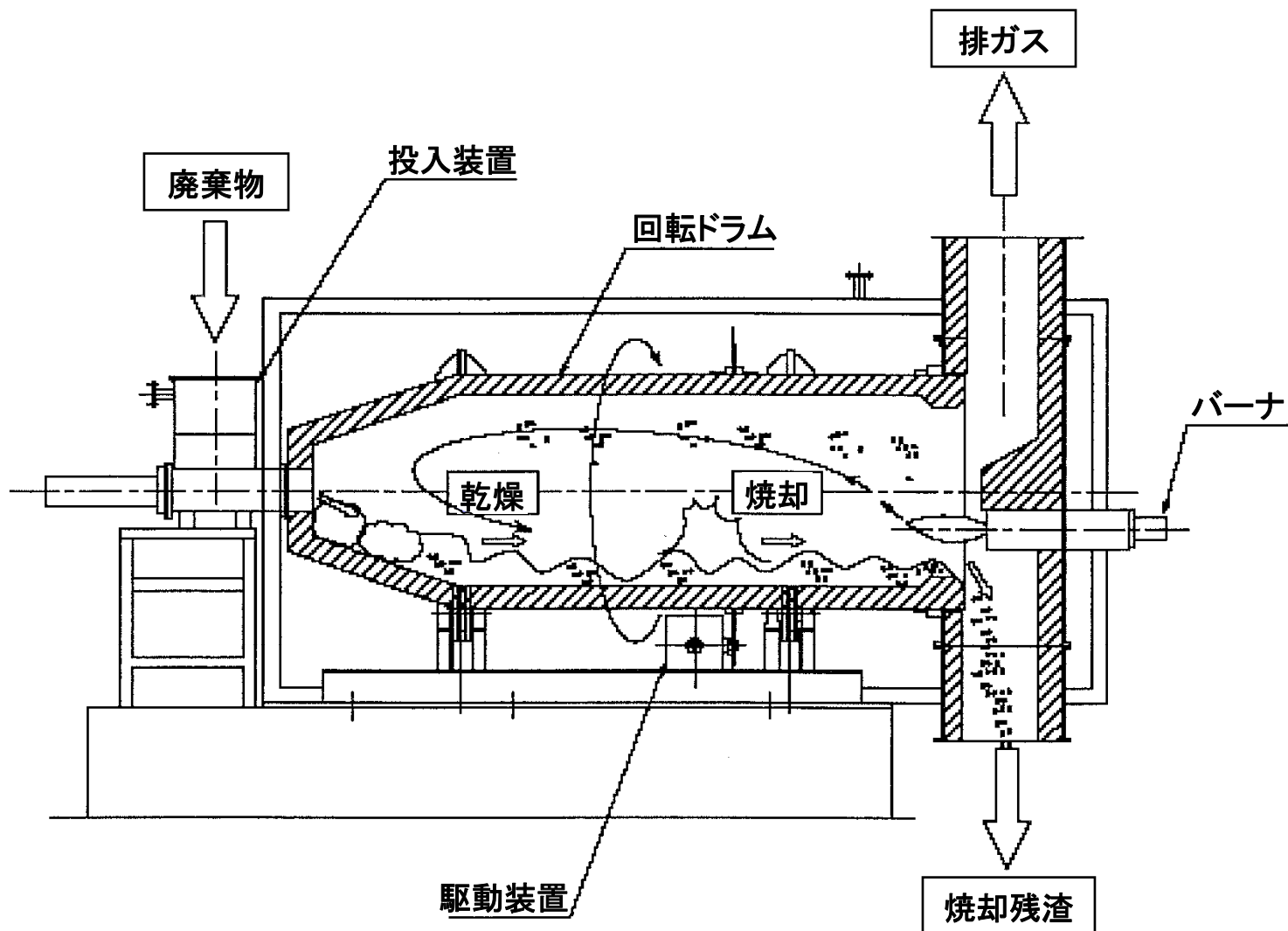
仮焼炉（ロータリーキルン）の特徴

- 炉内構造が単純で、保守管理が容易
- 乾燥から焼却までの炉内滞留時間を制御し、幅広い性状の廃棄物に適応
- ガラス等不燃物を含む廃棄物の排出性が良好



多様なRI廃棄物の処理に最適

ロータリーキルン炉の概念図



ロータリーキルン炉の事例



仮焼炉による模擬廃棄物の減容・安定化試験



模擬廃棄物1
(紙、プラスチック)



模擬廃棄物2
(ガラスバイアル、アルミキャップ)

仮焼炉による模擬廃棄物の減容・安定化試験



仮焼テスト炉

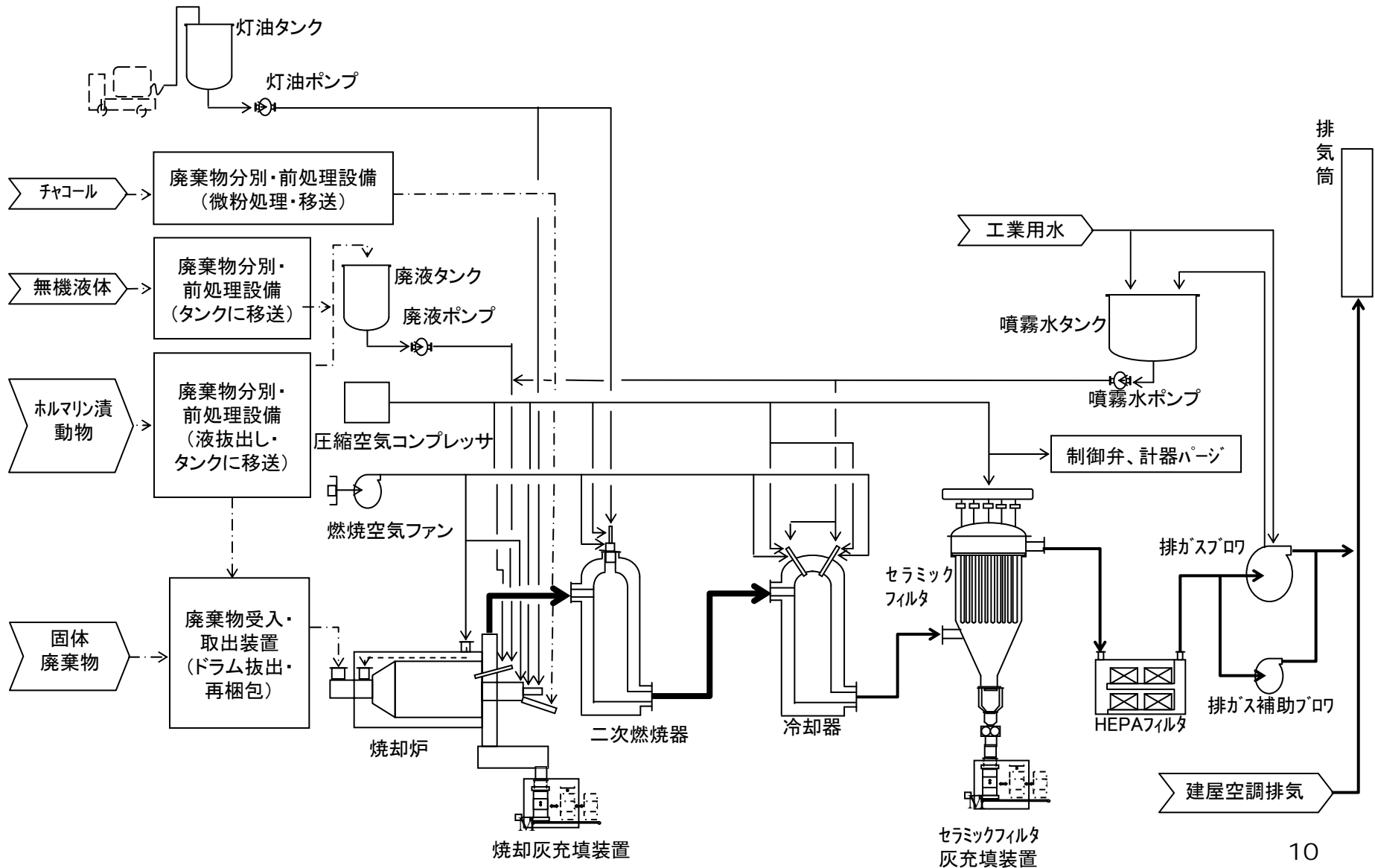


模擬廃棄物の投入



仮焼後の残渣

仮焼処理施設の系統図例



まとめ

- 減容・安定化処理(仮焼処理)により、RI廃棄物を減容・安定化させ、処分施設の操業開始まで間、貯蔵施設の安全な操業と貯蔵容量の確保
- 仮焼処理で得られた知見に基づき、RI廃棄物から作製する廃棄体の処分に係る技術基準を踏まえ、廃棄体作製施設を整備

今後の課題

- 放射線障害防止法、医療関連法令及び獣医療法によって、それぞれ規制される放射性廃棄物についての合理的な処理・処分方策の策定
- RI廃棄物の特徴（性状、含有核種、放射能濃度等）を踏まえた廃棄体等の処分に係る技術基準の整備